

今回の研修は私にとって初めての海外であった。自分自身、得るものが本当に多く、とても刺激的なものであった。ここから私が海外でできた貴重な体験と、そこから学んだことを述べていく。

最初に、中国への固定概念が大きく覆ったことである。中国は発展途上国ということもあり、車があんなにも多いとは思わなかった。（*1）

3日目に訪れたショッピングモールがあそこまで大きいものだとは予想もしていなかった。私は中国の発達ぶりに大きく驚いた。つづいて、私は中国へ行く前まで、中国人に対し怖いというイメージを抱いていた。しかし、どうだろうか。中国人民大学の人は本当にいい人ばかりであった。

中国に着くと空港まで迎えに来てくれ、毎日朝から夜までずっと私たちに時間を費やしてくれた。日本人が楽しめるよう、踊りを見せてくれたり歌を歌ってくれたりした。また、2日目の夜に何人かで外に遊びに出たのだが、帰りのタクシーではその場で出会った優しい大学生と一緒にタクシーに乗り合わせてくれ、大学まで送ってくれた。中国だから「怖い人」いうわけではない。世の中にはいろいろな人がいるのだから、怖い人がいて当たり前だ。私がそのようなイメージを抱いていたのはたまたま怖い人しか知らなかっただけだったのだ。それは日本人にいい人がいる反面、怖い人がいるのと同じことのように思った。自分が実際に行ってみないと分からないこと、関わってみないと分からないことが世界にはたくさんある。だからこそ今後、いろいろなことへ挑戦できる機会を大切にしていきたいと思う。

次に、中国の学生と日本の学生の違いを実感した。頭の良し悪しは大学の偏差値もあって一概には言えないが、勉強に対する姿勢が全く違っていた。向こうの学生と話をしている際にこんなことを言っていた。「大学での勉強は、大学受験の勉強をもう4年間続けるような感じ」

私たちは、全員がそうとは限らないが、学ぶというより単位を取ることが重要だと考えている人が多いように感じる。これが日本と中国の学生の勉強に対する考え方の違いだ。こういった学生と関わることで、高校生の時の勉強に対する懸命さを思い出した。せめて自分のやりたいことを見つけ、それにとことん没頭するような大学生活を送りたいと思った。

今回の研修は、中国の方、島根大学の先生方をはじめ様々な人に支えてもらいこのような貴重な体験をさせていただくことができた。このことに感謝し、多くの出会いを大切に、この経験を将来へ活かしていきたいと思う。

（*1）

（中国人民大学）

